

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成20年12月8日

財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科            教育学研究科

職            名                    教 授

氏            名                    岩 井 八 郎

事 業 区 分	平成 20 年度 ・ 短期派遣助成			
研 究 課 題 名	ポスト・フォーダイズム時代におけるライフコースの変動に関する比較研究			
受 入 機 関	イエール大学・社会学部・不平等とライフコース研究センター			
渡 航 期 間	平成20年11月10日    ~    平成20年12月1日			
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料			
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	370,000 円		
	使用した助成金額	370,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	航空運賃	伊丹 - ニュー ヨーク    往復	137,840円
		滞在費	コネチカッ ト州 ニューヘイ	232,160円

## 成果の概要

岩井八郎(教育学研究科)

本研究の目的は、申請者が日本のデータを用いて進めてきた、1970年代以降の日本人の人生パターンの変化に関する実証的研究と、イェール大学の「不平等とライフコース」研究センターで展開されている欧米諸国に関する類似の研究との交流を通して、ライフコースの変動に関する国際的な比較研究プロジェクトを発展させることである。

申請者は2008年11月10日より11月30日まで、イェール大学のカール・ウルリヒ・マイヤー教授がセンター長を務める「不平等とライフコース」研究センターに滞在した。その間、ワークショップへの参加、短期集中セミナーへの出席、研究者との研究交流、申請者の研究報告会などの機会を得た。滞在期間中、ワークショップには2回参加することができた。どちらも、当センターのポスト・ドクによる、アメリカにおける既存データを用いた研究報告であった。テーマは、教育機会の不平等と自営層への独立のプロセスであった。また、先端的な統計分析手法である、マルチレベルのイベントヒストリー分析に関する短期集中セミナーが滞在期間中に開催されたので、出席する機会を得た。その分析手法の基本的な考え方と統計ソフトの利用に関する最新の動向について学ぶことができた。この手法は、計量的な比較研究において、広く活用されると予想されているため、貴重な機会となった。

申請者が行ってきた研究の中で、日本における女性の就業パターンの変化に関する実証研究の結果については、11月20日に当センターで講演会を開催していただいた。参加者は20名ほどであった。資料として、講演会の案内として作成されたポスターを添付している。この講演会では、日本人女性のライフコースの変化を視覚的に示すことによって、家族主義的と呼ばれる日本の福祉レジームが現在どのような状況にあるのかを説明しようと試みた。報告では、国際比較データによって、日本の特徴が1970年代より明瞭になったことを示し、次に、戦前から1970年代までにどのような変化があったのかを説明した。そして、2005年「社会階層と社会移動」調査を用いた研究結果をかなり詳細に提示して、近年の動向を明らかにした。とくに1970年代前半に出生した第2次ベビーブーム世代において、高校卒と大学卒で非正規雇用が増えて、就業パターンに変化が生じている点を強調した。報告後の質疑応答では、参加者に日本における非正規雇用の実情についての知識が不足していたために、かなり詳細な説明が求められた。海外で報告する場合、パートタイム雇用、派

遣雇用などの概念規定を丁寧にする必要がある。政策的な含意や説明理論に関する見解も求められた。「経路依存性」を乗り越える新しい概念の必要性が、欧米の研究においても求められている点もよくわかった。より詳細なデータ分析が必要である点も指摘された。申請者の研究成果に関しては、概ね好評であったと思っている。

申請者の高齢者に関する研究については、英語論文があるので、それについて、マイヤー教授と議論する機会を得た。年金制度の改革とその結果について、日独の状況に対して意見交換した。またドイツとイギリスのデータを用いて、人生段階における就業から定年への移行と年金による経済的地位の獲得に関する実証研究を行っている、ポス・ドクのドイツ人女性研究者とも意見交換する機会を得た。彼女の研究は、60歳代の前半における職業経歴が不安定になっており、定年退職までの経路が複雑化している点を詳細な実証データに基づいて分析するものであった。研究枠組みにおいても、研究手法においても、今後、わが国で団塊の世代が60歳代をどのように経過するかに関する研究を構想する際に、大変有効な先行研究となっている。

「不平等とライフコース」研究センターでは、すでに多くの研究論文が蓄積されており、滞在期間中に最新の研究成果に関して、かなり広く文献を収集することができた。また申請者は、2009年1月から3月まで、28歳から42歳を対象にしたライフコース調査を日本で実施することになっているため、マイヤー教授からドイツにおける調査方法の詳細について説明を受けた。

今回の研究テーマに直接は関係ないが、イエール大学では、ほぼ毎日のように、全米のみならず海外からも研究者が来て、講演会を行っていた。誰でも気軽に参加できるものがほとんどである。申請者も滞在期間中にいくつか出席した。とくにアメリカのキリスト教保守主義の歴史と最近の動向に関する講義は興味深かった。このような講演会による知的交流の頻度の高さが、イエール大学の知的な環境の柱になっているように思える。京都大学も大いに学ぶ必要があると考える。3週間という短い期間であったが、以上のように知的密度の濃い環境の中で研究交流を深めることができた。研究費を助成していただいた貴財団、ならびに申請者を快く受け入れてくださった、イエール大学のマイヤー教授に深く感謝している。

**Lecture: “Is the M-shaped pattern of women’s life course changing in Japan? Findings from the 2005 Social Stratification and Mobility Survey”**

Hachiro Iwai, Kyoto University



**Thursday, November 20th 2008  
4:00 pm – 6:00 pm  
Yale Department of Sociology  
Williams Hall, 80 Sachem  
Room 107**

In Japan, the period from the early 1990s to the early 2000s is known as the Japanese lost decade. It is said that economic recession, aging of society, declining birth ratio, downsizing of enterprises and new gender role attitudes changed the patterns of one’s life. During that period, women born in the early 1970s, who belong to the second generation of the postwar Baby Boomers, completed their education and entered into the labor market. Using work history data of SSM2005 surveys, this paper clarifies how Japanese women’s life course has changed from the cohort born in 1970-74. Although M-shaped pattern of women’s labor force participation still characterize women’s life course, the work life patterns in their twenties and early thirties has changed from the 1970-74 birth cohort. Fulltime employment is declining and the number of part-time or irregular employees is growing. Mobility between workplaces becomes increasingly frequent. Few women follow the transition pattern form clerical workers to homemakers. The linkage between university education and work career for women has strengthened. Using the graphic presentation, this paper showed the differentiation of women’s life course in Japan.

\*\*\*\*\*